



< 新 気になるよそ様の数値 - 利益剰余金 (X8) - >

今回は利益剰余金(X8)です。この指標は、絶対的力量指標で、計算式は以下の通りです。

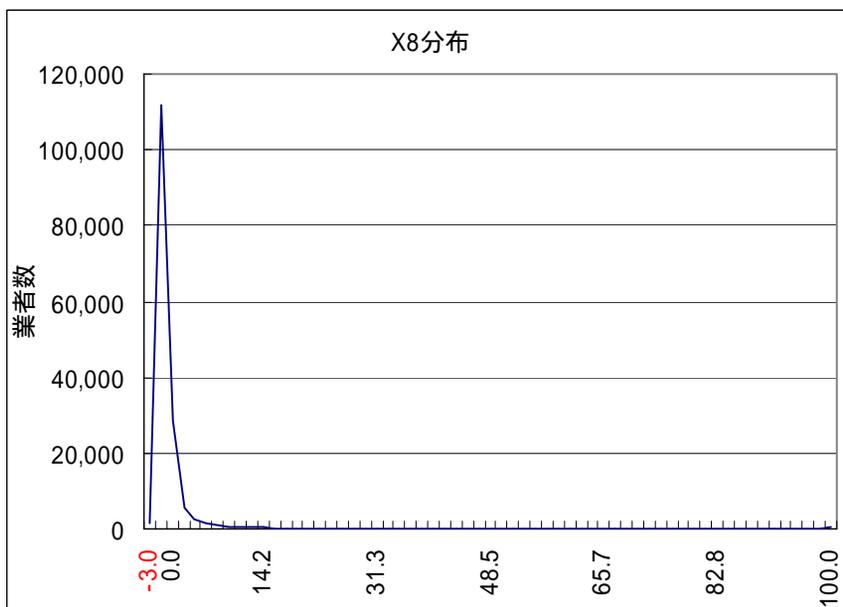
$$\text{利益剰余金 (X8)} = \text{利益剰余金} / 1 \text{ 億}$$

この指標は、会社内部に留保された利益剰余金の大きさを1億円単位で示した指標です。この指標は大きいほどよいことになります。

上限値は100.0、すなわち100億円で、下限値は-3.0、すなわちマイナス3億円です。Y点への寄与度は4.4%と高くはありません。しかし、Y点の配点は、1,802点(Y点の最低点 207点から最高点 1,595点の点数幅 実際の配点は、0点から 1,595点)のうち、およそ298点(配点割合 16.4%)と大きくなっています。

下のグラフは利益剰余金(X8)の分布図です。営業キャッシュフロー(X7)と同様に、全体が0付近に集中しています。0付近(集計上、-1.28億円から0.43億円)の会社数は、156,978社中、111,975社およそ71.3%となっています。大きく利益を蓄積する難しさが表れています。

< 利益剰余金(X8)の分布図 平成21年10月31日 156,978社 >



次に、完成工事高の階層別の点数(右の表)を見ますと、全体の88%は完工高5億円未満で、利益剰余金の平均値は、完工高5億以上10億未満で、2億7,830万円、完工高1億以上5億未満で、7,940万円、完工高0.5億以上1億未満で、2,260万円、完工高0.5億未満では、2,170万円となっています。

これらの数値は、左のグラフの数値から見て少し高いのではないかと考えられますが、これは、建設業を兼業事業としている会社があるためではないかと推測しています。すなわち、完成工事高別に集計している関係上、完工高の小さい階層にも、完工高は小さいけれども、建設業以外の主力事業の利益で利益剰余金が多い会社も含まれているのではないかとということです。今回の「経審」は、この兼業事業会社の躍進がひとつの特徴となっています。(このことに関しては、WiseNET2009.1月号「躍進する兼業事業会社」をご覧ください。)

< 完成工事高別平均点 利益剰余金(X8) 167,696社 >

完成工事高	平成22年4月16日現在
全体	1.357
100億以上	53.785
50億以上100億未満	26.585
20億以上50億未満	13.164
10億以上20億未満	6.204
5億以上10億未満	2.783
1億以上5億未満	0.794
0.5億以上1億未満	0.226
0.5億未満	0.217

データは公表されたものを集計したものです。

この指標では、1億円増えて、Y点がおおよそ2.88点、1千万円ならばおおよそ0.288点上がる計算になります。利益を蓄積して点数を上げるのは容易ではありません。しかも、建設需要が落ち込んでいる中ではもはや建設業だけで大きく成長するのは困難な時代です。「経審」の点数を上げながら、自社の強みを活かした、投資のいらぬ身軽な兼業事業があればなあと願うばかりです。

W I S E N E T 編集部 松 村 清 (税理士)

送信先宛名変更(右欄に変更後の宛名をご記入ください)
 今後「Wise FAXNET」送信不要
 FAX送信はこちらまで **0269-65-4745**

資料・デモをご希望の方は、下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名とご担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名

TEL

FAX